

新治小学校だより



ひびく心 はずむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して生かしながら、
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和5年度
10月号
令和5年9月29日



課題を解決する力

校長 川島 広子

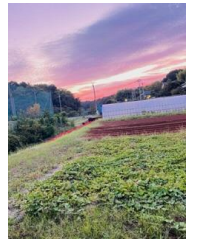
2年生が畑で育てているサツマイモの葉や蔓がとても立派に育っています。9月後半でも夏のような暑い日が続いていますが、確実に秋は近づいています。おいしい秋もすぐそこです。

さて、文部科学省が実施している全国学力状況調査が今年の4月に全国の小学校6年生約96万人を対象に行われました。この調査は、国や各教育委員会、各学校が、児童の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、成果と課題を明確化し、その改善を図ることで、学校内で児童への教育指導を充実させることを目的としています。今月の学校だよりは、新治小学校6年生の今年度の結果と分析をお知らせします。

【国語、算数のテストの結果】

平均点	新治小学校	対全国平均
国語	64	-3
算数	58	-5

※新治小学校は35名の平均値ですので、
調査のずれもあることをご理解ください。



【質問紙調査結果】

※質問全59問の中で、素晴らしい点・課題点が表れている設問、及び学校生活において重要だと思われる設問を抜粋（「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合%の合計）。

素晴らしいところ（全国平均と比較してスコアが高いところ）

	新治小学校	対全国平均
① 自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表をするなどの学習に取り組んでいますか	91	+17
② 5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて自分で考え自分で取り組んでいましたか	94	+16
③ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりする活動ができていますか	97	+15
④ 5年生までに受けた授業でパソコンタブレットなどのICT機器を週3回以上使用しましたか	77	+15
⑤ 将来積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	66	+13

課題（全国平均と比較してスコアが低いところ）

	新治小学校	対全国平均
⑥ 先生は授業や理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思いますか	86	-7
⑦ 日本やあなたが住んでいる地域のことについて外国人の人にもっと知ってもらいたいですか	72	-7
⑧ 道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	77	-7
⑨ 学校が休みの日に1日3時間以上勉強していますか	9	-5
⑩ 算数の授業の内容はよくわかりますか	77	-4

重要質問

	新治小学校	対全国平均
⑪ 自分にはいいところがあると思いますか	92	+13
⑫ 先生はあなたの良いところを認めてくれていますか	94	+12
⑬ 学校に行くのは楽しいですか	97	+12
⑭ いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか	97	+9
⑮ 困りごとや不安は先生や学校にいる大人に相談できますか	69	+9

国語・算数の学力状況は、全国平均をやや下回っています。質問紙調査を見ると、「⑥⑩理解できるまでの十分な指導」「⑨家庭での学習時間」が全国平均より低くなっています。この課題解決に向けて、算数の少人数クラスでは、習熟度によって3～4人の取り出し授業を実施する等、丁寧に指導できる体制をとっています。また、端末持ち帰りを進めることで、AIデジタルドリルによる個に応じたきめ細かな学習の機会を増やすとともに、家庭での学習の習慣化を促します。家庭学習については、ご家庭のご協力をお願いいたします。

昨年、全国平均を大きく下回っていた「④ICTを活用した教育」は、重点的に取り組んだ結果、全国平均を大きく上回る結果となりました。子どもたちの将来において非常に重要な力になりますので今後も力を入れて取り組みます。

また、学校生活で重要な質問である「⑪⑫自己有用感（自分にはいいところがあると思うか等）」「⑬学校が楽しい」「⑭困ったことを相談できる環境」「⑭いじめ排除意識」等は高スコアとなっており、自分の良さを理解するとともに、安心して学校に通えていることが分かります。引き続き授業や朝会を活用し、心の醸成を図ります。

今回6年生の素晴らしかったところは、「①課題を立てて情報収集し発表する力」「②課題解決力」「③コミュニケーション力」のスコアが高いことです。文科省が力を入れている教育の一つに「問題解決型学習（正解のない課題を通して問題解決へのアプローチ方法を身に付ける学習）」があります。例えば、台風予報が出た時に、様々な天気サイトを見て情報収集→新治地区のリスクを想定→リスク回避の方策を考えた行動をとる——といったことが自らできるようになるということです。社会参加後は、テストのように答えが1つではない課題に直面することが多々あります。生活や総合的な学習の時間、各教科を活用し、子どもたちに「課題を解決する力」を習得させていきます。

今後も、学校教育について、ご家庭や地域の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。